

鹿児島県

〔編集・発行〕鹿児島県奄美パーク
鹿児島県大島郡笠利町節田1834
電話 (0997) 55-2333
FAX (0997) 55-2612
<http://www.amamipark.com>

Vol. 4

2004 4月

奄美パークだより

奄美の郷コーナー

田中一村記念美術館コーナー

奄美パーク応援隊

田中一村記念美術館展示リスト

奄美パークからのお知らせ



奄美の郷企画事業報告

天皇皇后両陛下御視察

平成15年11月16日に、天皇皇后両陛下の御臨席のもと奄美群島日本復帰50周年記念式典が開催され、翌日11月17日に奄美パークを御視察されました。

奄美パークでは、宮崎緑奄美パーク園長が両陛下の案内を務めました。

また、大笠利わらべ島唄クラブに所属する笠利小学校の児童が、島唄を奄美の郷イベントステージで披露しました。



宝くじ文化講演会

9月28日に奄美群島日本復帰50周年を記念して、茶川賞作家の田辺聖子さんと沖縄の芝居役者の平良トミさんを招いて、「島のこれから」を開催しました。

田辺さんは、奄美出身の夫と親類を通して感じた共感が作品の原点となっていると説明していました。また、親



類に教わった「沖永良部百合の花」を歌い出すと、聴衆もいっしょになって口ずさんでいました。

また、平良トミさんは、平良夫妻による奄美との関わりや夫婦生活を題材にしたユーモアたっぷりのトークショーの他、地元唄者の中孝介さんの島唄や夫の進さんの太鼓をバックに、一人芝居「太陽の童」を演じました。初孫が成長する過程を演じると、会場の出席者から大きな拍手を浴びるとともに涙を誘っていました。



奄美パーク春まつり

平成15年2月22日～3月9日までの16日間「奄美パーク春まつり」島々の響演「」を開催しました。

初日の22日には、美術作家 三坂基文さんを講師に招いて「日常の中のアートとデザイン」と題して講演をしていただきました。23日の「徳之島・沖永良部島だより」では、知名町エイサー愛好会のエイサー太鼓に始まり、遊弦会せりよさの島唄、徳之島の井之川夏目踊り保存会の井之川夏目踊り、瀬戸内町の福山哲也さんの島唄などを、3月2日には女性のイベントとして「サンガツサンチ」を開催し、名瀬小学校1年生の川口さくらさんのバイオリン演奏や平久美さんの歌謡曲、七色会の皆さんによる新民謡などが披露されました。

最終日3月9日の「喜界島だより」では、喜界島エイサー太鼓、一条流舞踊教室の舞踊や東郷さやかさんの島唄のほか、傳重美さんの相撲昆句、名瀬市の鳩浜町八月踊り同好会の八月踊りなどで盛り上がり、充実したイベントとなりました。



3月2日「サンガツサンチ」川口さくらさんのバイオリン演奏



2月23日「徳之島・沖永良部島だより」知名町エイサー愛好会のエイサー太鼓

ネリヤカナヤフェスタ

平成15年6月29日から7月31にかけてネリヤカナヤフェスタを開催しました。

6月29日(日)のオープニングイベントでは、名瀬市の浜川信良さん・昇さん兄弟、笠利町の前田和郎さんの島唄トークや名瀬市の山元孝子琉舞道場の琉球舞踊の披露、また瀬戸内町海を守る会会員の横山貞夫さんによる奄美のめずらしい魚の解説や与論町のかりゆしバンドが明るくなどやかな演奏で会場を盛り上げました。期間中に瀬戸内町海を守る会の水写真展や名瀬市の岡山計さん制作の板付舟などの模型の展示、笠利町内5歳児の海中図画展や笠利町の泉馨さんによるイビラウの製作実演などを行いました。



6月29日「ネリヤカナヤフェスタ」かりゆしバンド



6月29日「ネリヤカナヤフェスタ」浜川兄弟

あまみっ子フェスタ

平成15年5月3、4日の2日間子供達をメインに「あまみっ子フェスタ」を開催しました。

3日は、多目的広場でエイサー太鼓から始まり、世界縄跳びチャンピオン木内友也さんの演技・指導では大勢の子供達に交じって親も一緒になって参加していました。

また、稲牛憲さんの竹細工コーナーも親子連れで賑わっていました。

4日は、ちびっ子達の島唄や琉球舞踊、太鼓演奏などをイベント広場で開催しました。

5日は、(有)サンエイ主催の第2回島一番子供島唄大会がイベント広場で行われ、子供達が自慢ののどを披露しました。



5月4日「あまみっ子フェスタ」ちびっ子達の島唄

サマーコンサート

「古来から今ぬせへ」パート2

平成15年8月24日にサマーコンサートを開催しました。

サマーコンサートは昨年に引き続き2回目の開催で、今回は、笠利町、龍郷町、大和村、住用村、宇検村、瀬戸内町のベテラン唄者11名が出演し、それぞれのシマ（地域）で歌われてきた島唄による「唄アシビ」を行いました。

また、奄美高校文化郷土研究部「太陽の子（ていだのくわあ）」は六調太鼓や八月踊りで会場を盛り上げていました。



フウメンコンサート

平成15年12月14日にフウメンコンサートを開催しました。

前年と同じく、赤木名・笠利中学校の吹奏楽部をオーブニングに、フォークデュオのカバース、アカペラコーラスグループのがじゅまるずやジャズカルテット「ルリカウス」とジヨイ洋子さんによる演奏などでジャズ・フォーク、吹奏楽などいろんなジャンルの音楽で「冬の訪れ」を演出しました。各グループともクリスマスソングを交え多彩な音楽を披露しました。

初春 唄アシビ

平成16年1月4日に正月休みを利用して、奄美を訪れる観光客や帰省客に合わせ、初春 唄アシビと題して島唄ライブを開催しました。

若手唄者山田葉月さんが「朝花節」でオーブニングを飾り、島唄の第一人者、坪山豊さんや皆吉佐代子さんらベテラン唄者もつづき、約三十曲を披露しました。他にも一条流紫寿音会による舞踊も披露され、最後には地元節田集落の正月遊び「節田マンカイ」で今年の初イベントを締めくくりました。



7月ライブステージ

平成15年7月20日に7月ライブステージとして一九九一年にカサン唄の普及を目的に発足した「島唄やまびこ会」と阿世知三味線教室の会員約50名による合同島唄コンサートを開催しました。

舞台上に立った会員らは日頃の練習の成果を披露し、会場に詰めかけた島唄ファンを楽しませていました。



11月ライブステージ 「藤あけみライブ」

平成15年11月9日に鹿児島市を中心に全国で活動する藤あけみライブコンサートを開催しました。今回は長男の宇都良太郎さんをはじめ、知人の方達が共演し、ギターの弾き語りや、ジャズ風にアレンジした島唄などを披露しました。

最後には、藤あけみさんの両親の出身地である名瀬市大熊集落「大熊五十路会」が八月踊り、六調で締めくくりました。

12月ライブステージ 「かさん唄への誘い」

平成15年12月21日に今年で結成23年目を迎えた笠龍地区民謡保存協会の皆さんによる島唄ライブを開催しました。

地元笠利町や龍郷町の若手からベテランまでの会員26名が出演。同地区の最優秀賞、新人賞に輝いた唄者や当原ミツヨさん、森山ユリ子さんらが「かさん唄」で平成15年最後のステージを締めくくりました。



2月ライブステージ

平成16年2月15日に新民謡の普及を目的に結成された奄美芸能七色会と奄美出身の歌手天美みずほさんのライブステージを開催しました。

オープニングでは地元節田出身の天美みずほさんが大勢の地元ファンの声援を受けてデビュー曲「花鳥風月」など5曲を披露し、続いて七色会のメンバー10名がおなじみの新民謡「加計呂麻慕情」など20曲を披露しました。

企画展示室事業報告

奄美在住作家展

「島が育む命の色」 植田正輝染

(平成14年11月1日～11月24日)

18歳から泥染めを始め、ソテツやハイビスカスなどの植物、海草、赤土等の奄美の天然素材にこだわった細作品の制作を続けている植田正輝さんの訪問着などの作品18点を展示しました。

また、素材の赤土や多彩な色に染めた糸も併せて展示しました。



第1回奄美を描く美術展

(平成15年2月13日～3月9日)

奄美の文化振興、観光発展を図るために、奄美の風物をテーマとした美術展を開催し、北は青森から南は沖縄まで全国の美術愛好家73名から115点の出品がありました。

美術愛好家に、奄美の美しい自然、豊かな人情、独特な地域文化に触れてもらうことができました。



水の道・海の道美の交流展

(平成15年3月15日～3月23日)

名瀬美術協会及び沖縄県美術家連盟等が合同開催する恒例の「美の交流展」に、今回は新たに横浜市美術協会も参加した交流展を開催し、写真部門の展示を行いました。

奄美文化センター会場では、絵画と立体作品を展示しました。



石崎正遺作展

(平成15年4月1日～4月27日)

奄美美術教育の礎を築いた石崎正遺作展を開催しました。

遺作展は、1月から奄美群島、沖縄で開催されてきた巡回展を締めくくるものとして開催し、ヨーロッパや奄美の風景、人物画など約100点を展示しました。



奄美関係作家展

ネリヤカナヤ／海のかなたの楽園／

越智伸明陶展

(平成15年4月29日～5月18日)

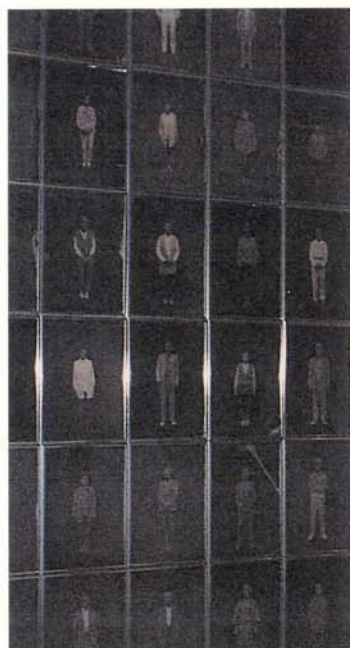
越智伸明さんは「楽園」をテーマに、南国の果実や貝殻、花等をモチーフに白化粘土や重ね塗り技法で、花器や食器を制作しているクラフト作家で、今回の展示は、平成14年の奄美訪問を機会に、奄美に魅せられ、奄美の自然をテーマに制作した陶器の作品を展示しました。



菅原一剛湿板写真展

(平成15年5月20日～6月3日)

菅原一剛さんは、平成14年から数回にわたり奄美大島を訪れ、加計呂麻島西阿室の人物や風景、マテリヤの滝等を湿板写真の技法で撮影し、その作品約60点を展示しました。(湿板写真は、撮影用の特殊な乳剤を浸したガラス板に被写体を写し込む技法で、写真技術が日本に伝わった頃の技法です。)



第50回記念県美展奄美巡回展

(平成15年6月7日～6月15日)

第50回県美展と奄美群島日本復帰五十周年を記念した奄美巡回展を、奄美文化センターと田中一村記念美術館において開催しました。当館では、日本画と工芸作品を展示しました。巡回展に合わせ、「奄美大島の回廊／田中一村と出会う旅」として美術協会員ら約60人が来島し、地元作家らとともにスケッチや田中一村の作品鑑賞などを行い交流を深めました。



奄美関係作家展

濱田康作写真展

ヴァイタル〜奄美群島混淆と多様の攪拌

(平成15年7月20日〜8月8日)

名瀬市在住の写真家・濱田康作さんの写真展が田中一村記念美術館企画展示室で行われた。奄美の風物や人、民族行事を撮影した作品を音声、映像作品と合わせて百点ほど展示した。同展の副題「混淆と多様の攪拌」は奄美の自然や生命、歴史の多様性をモノクロ作品や、撮影手法、他分野の表現手段や展示方法にも多様性や混淆が現れる展示となった。

上田喜一郎水中写真展

奄美の島々 海

(平成15年8月13日(土)〜8月24日(日))

鹿児島市在住の写真家・上田喜一郎水中写真展が開催された。上田さんは水中写真を撮るために三十才でダイビングを始め、世界各地の海を潜り鹿児島島の海の素晴らしさを再認識した。奄美の島々へ足を運び、二十一年間かけて撮りためた作品50展程展示した。開催期間中は夏休み期間中とあって多くの家族連れなどが訪れ、鑑賞を楽しむ姿が見られた。

奄美の一村展

(平成15年8月30日(土)〜9月16日(火))

一村自身が撮った奄美の写真四十一点や栃木県在住の写真家・田辺周一さんが撮影した一村の写真三十二点に加え、名瀬市有屋の住居復元図など当時を知る人々のエピソードとともに奄美時代の一村を紹介した。このほか、大熊の紬工場とともに働いた同僚の両親を描いた肖像画や実際に使用した画材をパネル写真で展示した。

公開座談会

「田中一村から世界自然遺産へ」

(平成15年9月13日(土))

奄美群島日本復帰50周年記念「田中一村から世界自然遺産へ」一村をとおして奄美を考えると題として公開座談会を行った。各専門家をパネリストに、主に奄美の自然を描いた一村の作品やその視点を分析、それらを通して浮かび上げる世界自然遺産登録に向けた方向性を討議した。会場の討議では、一村の絵に描かれた風景が破壊されているなど環境破壊への非難、奄美をPRする一つの形などの意見が出ていた。



愛と漂白の画家 保忠蔵展

(作品展示・記念講演・公開座談会)
(平成15年9月27日(土)〜10月14日(火))

龍郷町戸口出身の反戦画家保忠蔵展を企画展示室で行った。46歳の頃から80歳を越える晩年のころまでの作品51点を展示した。保忠蔵と同郷の作家・出水沢藍子氏を講師に「歩いた・描いた・生きた・保忠蔵の足跡」をテーマに記念講演があり、コーディネーター元野景一宇氏(詩人)・パネリスト出水沢氏・野村康博氏(学芸専門員)による「奄美をめぐる画家」のタイトルで公開座談会を行った。



ボランティアガイド

奄美パーク応援隊が発足



平成15年4月27日、奄美パークで応援隊の認証式が行なわれ、28名の会員が登録されました。

団体客やグループでの見学者が多いなか、会員は各自都合のよい日時に、奄美パークに来て、案内を行っています。

はじめのうちは、案内に自信がないからと、来園者への声かけに躊躇したり、お客様が案内を必要とするかどうかの判断に困ったりしていたような方も、回数をこなすうちに、自分なりの案内のバタ

ーンが徐々に出来上がりつつあるようです。

会員のなかには案内ガイド以外に、奄美パーク園内に地元の植物を植えたよもやま話をしたりするなど、多岐にわたる活動をしている方もあり、今後の展開が楽しみです。



奄美パークでいっしょに

活動しませんか!!

奄美パークでの案内ガイドを通して、奄美の魅力を多勢の方へ伝え、会員同志の交流に参加しませんか。

活動内容

① 展示案内ガイド

・奄美パーク来園者に対して、奄美の歴史や文化、自然、島の暮らし、観光ポイントなどを紹介する。

・田中一村記念美術館で鑑賞の際のポイントを随行案内する。

② 手熟ガイド

・奄美パーク来園者に対して、機織り、三味線、太鼓、ナンコ、ソテツ編みなど、島に伝わる遊びやモノ作りをしながら島を紹介をする。

③ 奄美パークの諸事業のサポートを行なう。

活動時間

・原則として奄美パークの開園時間内とする。

応募資格

・奄美パークまで各自来園可能な方で、原則として養成講座終了後、ボランティアとして月2回以上無償で活動に参加する意欲のある一般成人。

応募方法

・奄美パークが指定する申込用紙に必要事項をご記入のうえ事務局まで持参か郵送ください。

応援隊会員の声

多田 開さん (70歳)

来館者と感動を共有することが生きがいの日々
奄美パークでボランティアガイドをしてみませんか、と知人から誘われたのが、たしか平成15年の春頃だったと思う。もともと人と接することが苦手な性格ではなかったし、定年退職後、今まで仕事に追われて出来なかったことをいろいろ学習したいと、かねがね思っていた矢先でもあったので、快くお引き受けすることにした。

引き受けたものの、いよいよ実行に移る段階になって初めて事の重大さに気がついた。まず、奄美パークに来館される方の、「あらゆる質問に対応しなければならぬ」「質問の答えは正確でなければならない」「対応する態度は好印象でなければならない」等である。もしも、ガイドという役割の人が来館者に対していい加減な対応をすれば、奄美パークの権威が損なわれることになりかねない。責任は重大である。しかも、私は5年前に大阪から奄美大島へ引っ越して移り住んだ人間で、やっと奄美のことが少しずつ解りかけてきたばかりである。『田中一村』という画家の存在も、奄美パークに来て初めて知ったぐらいだ。

それからの数ヶ月、猛特訓が始まった。もともと人にものを教えるという仕事をしていたこともあって、ものを覚えることはさほど苦にならないし、人のおしゃべりも嫌いなほうではないので、日本の各地からお越しになる人々に、少しでも感動を与えられるように努力して、これからもこのボランティアガイドという活動を通して私の生涯学習の一つと思い続けて行きたいと思っている。

(多田さんのメールアドレス: sunfish@juno.ocn.ne.jp)

わぎや島自慢



心をつなぐ力水名瀬市大熊の壺入水（名瀬市大熊）

名瀬市大熊の入口に昼夜コンコンと流れる泉がある。これを「壺入水」という。現在では「チボリの水」と呼んでいる人が多い。現在この場所は、埋立てによって海岸線から離れているが、古くは近くまで海であり、船着き場はそのすぐ近くにあった。

記録によると、藩政期の大熊港は琉球下りや鹿児島上りの重要な貿易港として帆船の出入りが多かった。鹿児島山川港から奄美大島に対する必需品を積み、役人を乗せて、旧八月、九月の北風を利用して大熊に寄港し、翌年四、五月の南風を利用して薩摩藩に納める黒糖を積荷して、交替役人を乗せて山川港に向かった。その際、役人は必ずこの泉の水を壺に入れていったと伝えられている。

して使われていた。

現在の大熊地区は都市計画事業が進行中で、街の姿は大きく変貌しているが、その片隅にはひっそりと生き続ける「壺入水」は、正に古代から人々の心をつなぐ力水である。



国指定史跡 宇宿貝塚

（笠利町宇宿）

笠利町には、国指定2、県指定1、町指定80、その他特別記念物などの動植物も生息している。

その中でも、奄美空港から北方車で約5分、わが国にとって極めて貴重な遺跡宇宿貝塚がある。

宇宿貝塚は、昭和8年に京都大学の三宅宗悦博士によって発見され、日本でも比較的早い時期に奄美に戦死遺跡が存在することが明らかになった。その後復帰間もない昭和29、30年に再び発掘調査が九学会連合によって行われた。その結果、貝塚の上層からは無文土器（模様のない土器）が下層からは有文土器（模様のある土器）石組住居等が発見された。昭和53年には町教育委員会によって重要遺跡確認調査が行われ、母子合葬人骨、貯蔵穴、小型磨製石器、ガラス製玉、骨製品等が出土している。



石組住居跡

また、南方や大陸とのかわり、日本文化の解明につながる貴重な資料として昭和61年10月7日に国指定文化財となった。

田中一村記念美術館常設展示室展示作品 展示期間（平成16年3月18日～7月上旬）

常設展示室 1

幼年期～青年期 明治41年（1908）～昭和13年（1938）

すでに本格的な絵の勉強を始めていた少年期の色紙。

- ・平安長春（色紙） 大正11年（1922） 14歳
- ・喜呈芳色（色紙） 大正13年（1924） 16歳
- ・花菖蒲（色紙） 大正14年（1925） 17歳

十代後半南画家として将来を嘱望され、盛んに南画を描く。

- ・梅花図（色紙） 昭和2年（1927） 19歳
- ・山水図（軸装） 大正14年年（1925） 17歳

将来進むべき画風を示すが、南画の支持者からは賛同を得られなかった。

- ・落の臺とメダカの図（軸装）
昭和6年（1931） 23歳

千葉寺時代 昭和13年（1938）～昭和33年（1958）

コレクターの注文に応じて描いた「倣…」の南画の作品群。

- ・倣蕪村④（軸装） 昭和22年頃（1947） 39歳頃
- ・倣木米③（軸装） 昭和22年頃（1947） 39歳頃
- ・倣聾米②（軸装） 昭和22年頃（1947） 39歳頃

日本一の軍鶏鳥を描いてほしいと頼まれ、苦心した襖絵

- ・花と軍鶏（襖絵） 昭和28年（1953） 45歳
百姓と見まごうばかりの千葉寺の生活、身近な素材をテーマに描く。

- ・夏富士（色紙） 昭和18年頃（1943） 35歳頃
- ・農村春景（色紙） 昭和19年頃（1944） 36歳頃
- ・山の田（色紙） 昭和21年頃（1946） 38歳頃

『花と軍鶏』のための素描

- ・素描・軍鶏①（額装） 昭和28年頃（1953） 45歳頃

常設展示室 2

身近な自然を描いた千葉寺の作品。

- ・ザクロ図（額装） 昭和30年頃（1955） 47歳頃
- ・花とトラツグミ（額装）
昭和30年頃（1955） 47歳頃

- ・千葉寺・牛が往く野（額装）
昭和30年頃（1955） 47歳

- ・千葉寺風景①（額装） 昭和30年頃（1955） 47歳頃

・四国・九州の旅 昭和30年（1955） 47歳

旅先で描いた作品は明るく躍動感にあふれ、奄美行きのきっかけともなった。

- ・高千穂②（色紙）
- ・青島の朝（色紙）
- ・室戸岬（色紙）
- ・九里狭（色紙）

・奄美の一村 昭和33年（1958）～昭和52年（1977）

奄美時代の色紙。

- ・パパイアのある風景（色紙）

昭和30年代

- ・高倉（色紙） 昭和35年頃（1960） 52歳頃
- ・野生蘭と蝶（色紙） 昭和40年（1965） 57歳
- ・奄美の花（色紙） 昭和40年頃（1965） 57歳頃
- ・ブダイとサンゴジュ（色紙）

昭和50年（1975）

67歳

奄美時代初期作品、お世話になったお礼に気軽に描いてあげた。

- ・竹にオオルリ（額装） 昭和35年頃（1960） 52歳頃
緻密な写生を繰り返した「素描」。

- ・素描・魚②
- ・素描・エビ②
- ・素描・鳥⑤
- ・素描・鳥⑥
- ・素描・鳥⑨

常設展示室 3

- ・花と鳩（下図）（額装）

昭和40年（1965）

57歳

「奄美時代」初期の作品。

- ・パパイアと高倉（額装）

昭和35年頃（1960）

52歳頃

- ・海辺のアダン（額装） 昭和35年頃（1960） 52歳頃

奄美の自然を描き、一村芸術が華開いた作品の数々。

- ・奄美の杜⑦～ピロウ樹（額装）

昭和40年代

- ・奄美の杜①～ピロウコンロンカに蝶（額装）

昭和40年代

- ・アダンの木（額装） 昭和40年代

- ・エビと魚（額装） 昭和51年頃（1976） 68歳頃

- ・花と鳥（額装） 昭和40年代

- ・奄美の杜⑧～ピロウとブーゲンビレア（額装）

昭和40年代

- ・奄美の杜⑨～ピロウとアカショウビン（額装）

昭和37年（1962）

54歳

奄美の郷

ライブステージについて

奄美パークでは、毎月第3日曜日を「奄美の郷ライブステージ」として、奄美の郷イベントステージを島唄や多彩な芸能等の発表の場に利用していただいています。

もちろん使用料は無料です。

発表・練習を問いません。ど

うぞお気軽にご利用下さい。

50万人突破！

平成15年9月15日、奄美パークへの来園者が50万人を突破し、記念セレモニーが行われました。50万人目の来園者となったのは、群馬県前橋市から訪れた都丸明俊さんで「奄美は2回目、一村の絵に興味があり来園しました。島の暮らしなども分かる素晴らしい施設ですね。」と喜びを話しました。

奄美パークから

お知らせ

様々な企画
満載です。

奄美を描いた画家「田中一村展」が左記のとおり開催されます。

◇平成16年4月6日(火)～4月14日(水)

福岡三越ギャラリー

◇平成16年4月16日(金)～4月25日(日)

福屋広島駅前店

◇平成16年4月28日(水)～5月9日(日)

大丸ミュージアム・東京

◇平成16年5月12日(水)～5月24日(月)

大丸札幌店

◇平成16年5月27日(木)～6月8日(火)

大丸ミュージアムKOBÉ



奄美パーク周辺地図



- 開園時間／9：00～18：00（7月・8月は9：00～19：00）
入園は、閉園時間の30分前までです。
- 休園日／毎月第1及び第3の水曜日（祝日の場合は翌日）
（4月29日～5月5日、7月21日～8月31日は開園）
年末年始（12月30日～1月1日）
- 施設観覧料／奄美の郷、田中一村記念美術館共通観覧料
大人400円、高校・大学生280円
小・中学生200円、幼児（小学生未満）無料

●お問い合わせ

鹿児島県

奄美パーク

■奄美の郷

■田中一村記念美術館

〒894-0504 鹿児島県大島郡笠利町節田1834 Tel. 0997-55-2333 Fax. 0997-55-2612

<田中一村記念美術館> Tel. 0997-55-2635 Fax. 0997-55-2613